

IV-4(1) 学校と地域をつなぐコーディネーターの役割や位置付け

① コーディネーターの役割と効果的な配置・位置付け * 38

地域住民の参画をNPO職員がコーディネート「ならばキャンパス」(福島県楡葉町)

東京のNPO法人が中心となって放課後の学習支援活動を立ち上げ、NPO職員がコーディネートを担い、地域住民が参画することにより、ノウハウを学び、人材育成につながっている。

ならばキャンパス

- 移転先のいわき市に開設し、楡葉町の住民を対象とした子供の学習支援、保護者同士の交流、コミュニティ・キッチンの企画運営等、学びを中心に、地域住民が交流するきっかけをつくる。
- 震災による学習環境が悪化し、学習遅れがある子供の学力補強を行う。

取組の概要

六つの事業を企画・運営をする。

○児童生徒向け放課後補習教室「ゆずり葉学習会」

学習支援員等が放課後等の生徒の安全で安心な居場所を確保する。教育委員会、学校の教職員と連携しながら、実施内容と時間割を作成。学習補助のほか高校や大学進学に向けたアドバイスを行う。

○ICTを利用した遠隔型個別学習支援

学習遅れの解消のために、ICTを利用した学習進度に合わせた学習ドリルによって学び直すとともに、学習支援員による学習計画等の指導も行う。

○ならばスポーツクラブ

スポーツイベントや講座の実施。試合相手の招へい、地域のスポーツクラブの紹介などを行う。スポーツや体験活動を通じた体力増強を行うことで、学習に必要な集中力、筋力、根性を身に付ける。

○定例子供会議

講座作り、町づくりに子供の意見を取り入れる。調べ学習の延長。大学生ボランティアや地域の方と一緒に将来のキャリア等について学ぶ。他の自治体の取組を実際に視察して取り入れる。

○子育て世帯の保護者の茶話会

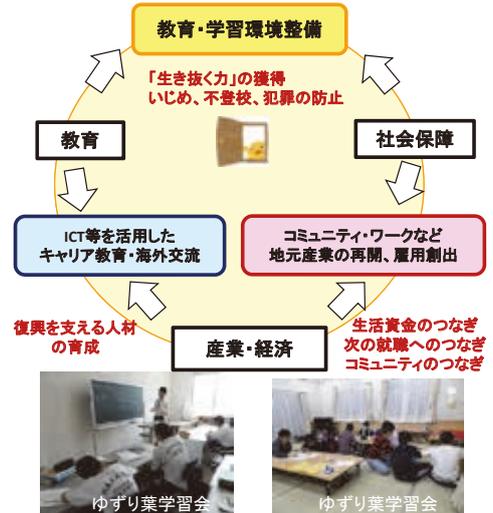
教育上の悩みや生活上の悩みなど子育ての悩みを話し合い、保護者同士や地域の資源で解決する。外部の力が必要な場合は、地域教育コーディネーター等が取りまとめて検討し、関係機関と協議する。

○ならばコミュニティ・キッチン

食材を持ち込めば、料理ができる。地域の味を食材の選び方や伝統的な料理法まで徹底的に教え込む。炊き出しによる地域の交流の場になる。

特徴・期待される効果

- 子供の「生き抜く力」の獲得の為に、学習支援をキャリア教育と地域の人材活用を合わせて行う。



IV-4(1) 学校と地域をつなぐコーディネーターの役割や位置付け

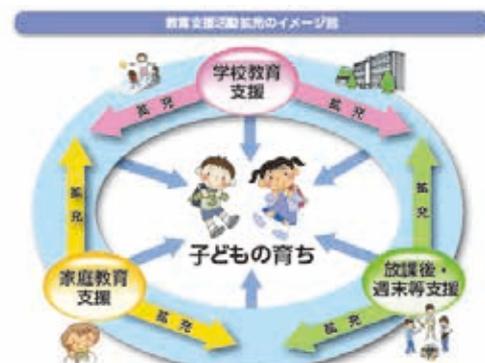
② 学校のコーディネーター(地域連携担当の教員等)の位置付けの明確化 * 39

地域連携担当教員の配置の事例

(岡山県)

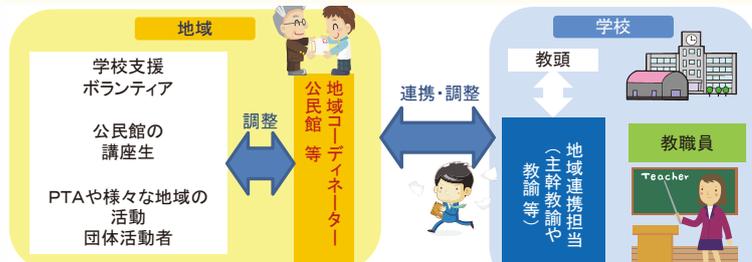
○平成20年度から「学校支援地域本部」事業を実施。平成23年度からは「おかやま子ども応援事業」のメニューとして実施。

○「おかやま子ども応援事業」とは、地域住民の参画による「学校支援地域本部」、「放課後子供教室」、「家庭教育支援」の活動を有機的に組み合わせた取組を推進し、学校・家庭・地域が連携して、地域ぐるみで子供を健やかに育むとともに、学校力・地域力の向上を図る事業。



○学校と地域が連携していくためには、学校の組織的な体制整備が必要!

○平成24年度から全ての公立小中学校、県立学校に「地域連携担当」を校務分掌として位置付け、地域(家庭を含む)への窓口が明確化(計783名)



※学校の実情により、教頭が「地域連携担当」を兼ねる場合あり。

【学校教育支援】から【放課後・週末等支援】へ

～取組事例【美咲町立旭小学校 学校支援地域本部の取組】～

★学校教育支援の中に放課後・週末等の取組を増やすことで、地域における子供への一貫した支援を充実することが可能に。

★教員とボランティアによる算数のアフタースクール(放課後学習支援)では、基礎学力の向上や学習習慣の定着が図られている。

★平成25年度からは保護者のニーズ等を踏まえ、小学校区を対象に公民館を活用して「寺子屋あさひ」(放課後子供教室)を新規開設。

IV-4 (1) 学校と地域をつなぐコーディネーターの役割や位置付け

② 学校のコーディネーター(地域連携担当の教員等)の位置付けの明確化

* 39

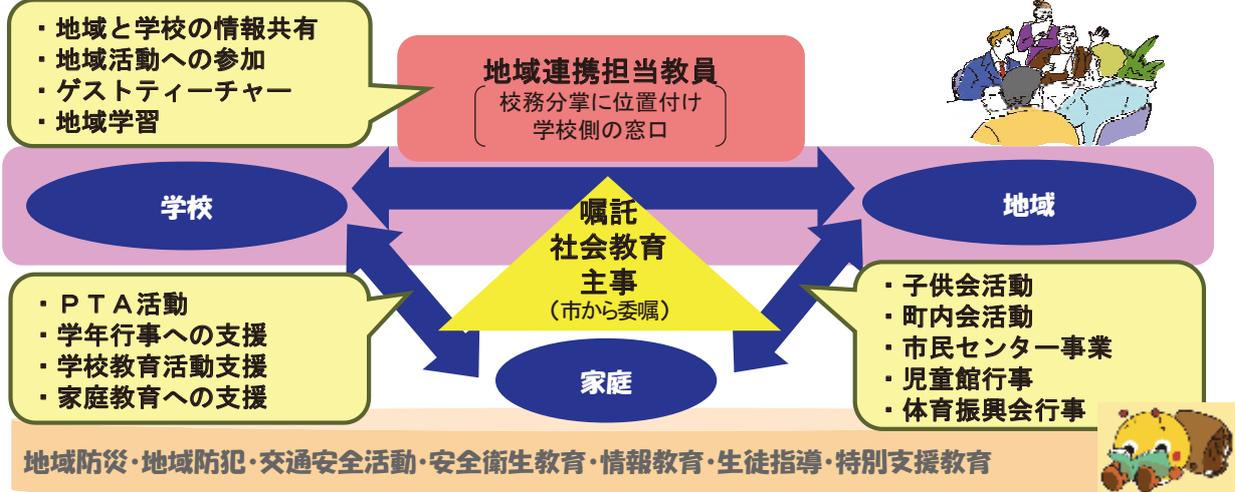
学校における地域連携担当と嘱託社会教育主事制度

(宮城県仙台市)

○市立学校に勤務し社会教育主事の資格を有する仙台市の公立学校教員に対し、仙台市教育委員会が社会教育主事を委嘱する制度である。(管理職や教員。学校に配置)

○委嘱された社会教育主事は、学校教育に携わりながら、社会教育主事としての専門性を発揮し、学社連携・学社融合などの社会教育活動を推進する。

○地域連携担当教員は、地域の方々、社会教育関係団体やボランティア団体等との連携や連絡調整に関することを担当し、学校と地域をつなぐ窓口となる。(市内全小中、中等教育学校に配置)



IV-4 (2) コーディネーターの育成・機能強化に向けた研修の充実

* 40

地域コーディネーター等向け研修会 (平成25年度実績)

(群馬県)

《主な特徴》・教育支援活動関係者向けには県内の各地区ごとに、子供との関わりを中心とするテーマで全7回実施
・コーディネーター向け研修には学社連携推進担当教諭も参加し、県域で1回実施

【教育支援活動関係者等研修会】(県内の地区ごとに実施(5会場場・全7回))

- ・対象: 放課後子供教室事業関係者(教育活動推進員、教育活動サポーター等)、放課後児童クラブ指導員、各市町村教育委員会担当者等(地区ごとに異なる)
- ・講義テーマ: 「子供の学びや成長につながる体験活動」「子供が目を輝かせる作品づくり」「子供を見守る安心な居場所づくり」「特別な支援を必要とする子供への対応について」等
- ・講師: レクリエーション指導者、自然体験活動指導者、大学教授、教育活動推進員等
- ・主な内容: 講義、実技指導(レクリエーション指導、作品制作等)、ワークショップ(教育活動サポーターが少人数の班に分かれて情報交換や意見交換)等

【教育支援活動コーディネーター等研修会】(年1回)

- ・対象: 放課後子供教室事業コーディネーターや教育活動推進員、教育活動サポーター、学校支援地域本部コーディネーターやボランティア、学社連携推進担当教諭、各市町村教育委員会担当者等
- ・講義テーマ: 「気になる子供の理解とその対応」
- ・講師: 大学教授(社会心理学、教育心理学専攻)
- ・事例発表者: 学校支援地域本部コーディネーター、放課後子供教室事務局長
- ・班別協議: 参加者が班に分かれ、良好な人間関係を築くための活動における課題を出し合い、解決法を話し合う

教育支援活動
コーディネーター等
研修会チラシ ↓



IV-4(2)コーディネーターの育成・機能強化に向けた研修の充実 *41

地域コーディネーター等向け研修のテキスト事例 (特定非営利活動法人 スクール・アドバイス・ネットワーク)

H24年度 文部科学省 委託事業「社会教育による地域の教育力強化プロジェクト」における実証的共同研究にて実施

【初級】地域コーディネーター向け

★利用する機会：コーディネーターと学校関係者との打合せ等

「学校と地域をつなぐ地域コーディネーター育成テキスト」

地域コーディネーターについて、詳しく解説し、地域コーディネーターが身につけるべき基礎的知識・技能等を掲載し、コーディネーターの質の向上を図ることを目的に作成。

- | | | |
|----|--------------------------|-----------------------|
| 目次 | 01 学校教育支援の基礎 | 04 学校・地域のネットワークづくり |
| | 02 地域教育コーディネーターの役割と業務の理解 | 05 学校教育プログラム開発支援方法の理解 |
| | 03 学校・児童生徒の現状理解 | 06 プロジェクトマネジメント |

【中級】現在コーディネーターの方、学校関係者向け

★利用する機会：コーディネーターと学校関係者との打合せ等

「学校支援について考えよう 学校支援ハンドブック」

学校に入る側も、受入れ側も、心得ておきたいことについて、ハンドブックを作成。

- | | | |
|-----|---------------------|----------------------------|
| 見出し | ・子供たちの今・地域による支援の効果 | ・地域による学校支援 私たちができること |
| | ・地域による学校支援...何ができる？ | ・学校に入る側も、受入れ側も...心得ておきたいこと |

【上級】コーディネーター研修を行う行政及び団体向け

★利用する機会：コーディネーター研修会

「学校支援地域本部地域コーディネーター育成「情報共有・参加型」研修ガイドライン」

学校支援地域本部に関わる様々な教育支援人材の役割の整理を行うとともに、学校と地域・家庭をつなぐための実践活動の「軸」となる「地域コーディネーター」を育成するための課程を「モデルライン」として作成。

- | | | |
|------|------------------------|----------------------------|
| 主な目次 | 1-3【地域コーディネーター育成方針】 | 1-4【地域コーディネーター育成に関する共通的事項】 |
| | 2. モデルガイドライン | 3-1 情報共有機会の設定 |
| | 4. 地域教育プラットフォームの構築に向けて | |

※テキストは全て 学校と地域でつくる学びの未来 (HP) にて、掲載 [HP: http://manabi-mirai.mext.go.jp/report/2945.html](http://manabi-mirai.mext.go.jp/report/2945.html)

IV-4(2)コーディネーターの育成・機能強化に向けた研修の充実 *42

地域コーディネーター等向け研修会 (平成25年度実績) (新潟県)

《主な特徴》・新規実施校や開始年度別、教職員対象など課題が異なりそうな対象者を分けた研修会を実施
・その他、共通のコーディネーター研修(年3回)、一般の方も交えた普及啓発フォーラムを開催

【個別対象者別研修会】

【新規実施校研修会】(年1回)

- ・内容：職員紹介、事務手続やハンドブックの説明、事例発表
- ・事例発表者：地域教育コーディネーター、小学校教諭

【教職員対象研修会】(年5回)

- ・対象者：新任校長、新任教頭、12年経験者、初任者、新任事務職員(対象者別に実施)
- ・講師：元小学校長、新潟市教育委員会指導主事、大学教授(経営情報学科)
- ・教職員課、総合教育センターと連携して実施

【開始年度別研修会】(年3回)

- ・日程：学校支援地域本部を開始した年度ごとに対象を分け、年度初めの5月に実施(3日間)
- ・対象者：学校担当職員、地域コーディネーター
- ・内容：講話、意見交換(ワールド・カフェ方式)

【地域教育コーディネーター等向け研修会】(年3回)

- | | |
|---|---|
| ・対象者：①地域教育コーディネーター、学校長
②地域教育コーディネーター、学校担当者 | ・テーマ：①「地域とともに歩む学校づくり
～校長に求められるリーダーシップ～」
②「地域と学校パートナーシップ事業
～ステップアップのための提言～」 |
| ・内容：①事例発表、講演
②グループ情報交換会、講演 | ※②については、小・特支、中・中等教育に分け、2日間実施 |
| ・講師：①大学准教授(教育学部)
②大学専任講師(人文学部) | |

【一般の方々も交えた教育フォーラム】(年1回)

- ・対象者：一般市民、地域教育コーディネーター、学校関係者、社会教育施設職員 等
- ・講師：スポーツライター兼キャスター
- ※全体の進行はお笑い集団(学校での講演活動や教員研修会での講演経験を持つ)
- ・内容：事業紹介、講演、トークタイム ・テーマ：「ふる里の人とつながる！ひかりあう！」